

# むつごろう通信

3号

2003年

2月28日発行

## 退官の御挨拶



生物資源循環系  
解析学分野  
教授  
山口隆男

私は天草五橋開通の前年に着任し、以来37年余になります。合津マリンステーションの設備、建物は驚くほどに立派になっています。その使命を理解した熊大の方々の熱意、地元の松島町の方々の協力のお陰です。そして、研究、教育、社会への貢献に関して着実に成果を挙げています。

私にとって、ハクセンシオマネキは、ありがたい存在でありました。甲の幅が2 cm 足らずの可愛らしいカニで、天草松島は日本有数の生息地です。雌はハサミが両方共に小さいのに、雄では片一方が巨大化しています。夏には雄は活発な求愛ダンスをします。社会性が発達しており、動物行動学



ハクセンシオマネキ。雄は巨大ハサミを振って雌を誘っている。

的に実に興味深い。ハクセンシオマネキを活用して、いろいろな研究を展開できたのは幸いでした。

美しい天草松島で研究・教育生活を送り、建物、設備の整備を進めてきたが、臨海実習に関したものを特に充実でき、私は満足しています。また、誇りに思っています。有明海、八代海の環境悪化に伴って、合津マリンステーションの役割は一層大きなものになりました。今後の活動に期待しています。



\*\*\*\*\*  
略歴：1965年9月に熊本大学理学部附属臨海実験所（当時）助手として着任，専任講師，助教授，教授を経て，沿岸域環境科学教育研究センター教授。着任以来一貫して天草で研究と教育を担当。  
2003年3月定年退官

室内での実習風景。実習関連の設備は充実している。

## 平成14年度熊本県水産研究センター研究報告会で講演しました

2002年12月11日、水産研究センター（大矢野島）にて、有明海・八代海の水産、環境について研究成果発表会が開催され、21の講演がありました。地域連携を目的に、今回から県下の研究機関も参加し、活発な意



見交換が行われました。熊本大学からは、沿岸域環境科学教育研究センター、理学部地球科学科、自然科学研究科の教官、学生が参加し、4件の話題提供をしました。

—熊本大学関係者の講演題目—

1. 有明海におけるタイラギの大量死と養殖の試み（逸見泰久：沿岸域センター）
2. 有明海・島原湾・諫早湾の堆積物分布図（大久保功史・田中中和・筑紫健一：以上理学部地球科学科3年・秋元和實：沿岸域センター）
3. スサビノリのレトロトランスポゾン遺伝子（瀧尾進：沿岸域センター）
4. ヒラメにおける雄化マーカーの探索（吉永憲史：自然科学研究科博士課程前期1年）

有明海における堆積物の分布について講演する大久保功史君（理学部地球科学科）

## 第1回沿岸域センター講演会「有明海・八代海の環境研究」を開催しました

2003年1月31日午後、くすの木会館（熊本大学黒髪北地区）にて、最近の有明海・八代海の環境変化について、3名の研究者にご講演いただきました。定員80名の会場に学内外から100名を超える来場がありました。100部用意した資料が、マスコミ（2社）配分までなくなる程の盛況でした。

### 地域への取り組みも多様です

沿岸域環境科学教育研究センター教員は、国・県などの委員や地元主催の観察会（今年度は14回）講師として地元へ貢献をしています（詳細は各年度のセンター報を参照ください）。

—主な委員—

1. 熊本県希少野生動植物検討委員・調査委員（熊本県）：内野，逸見
2. 八代海域調査委員会委員（国土交通省）：瀧川，逸見
3. 三池港環境影響基礎調査委員会委員（国土交通省）：瀧川，逸見

なお、講演の内容は、ホームページを参照ください。

—講演題目—

1. 「赤潮原因プランクトンの最近の変化」  
長崎大学水産学部 松岡数充教授
2. 「有明海の干潟は元気か」  
島根大学総合理工学部 石賀裕明教授
3. 「底生有孔虫から水銀汚染を探る」  
鹿児島大学総合研究博物館 大木公彦教授

## 「有明海・八代海総合調査評価委員会」の委員に瀧川清教授が任命されました

有明・八代海の再生法によって国や県が行う総合調査等を基に、この海域の再生に関する評価を行う極めて重要な国の諮問委員会です。瀧川教授は、これまでも「農林水産省有明海のり不作等対策関係調査検討委員会」委員、「有明海海域環境調査委員会」委員、「有明海海域環境モデル専門部会」委員長、また川辺川ダム問題に関連する国土交通省の「八代海海域調査委員会」委員などを歴任中で、有明海・八代海研究の第一人者として、国や県等への指導、提言を行い、大いに貢献中です。

## 市民公開講座「八代海・有明海を科学する」開催中

熊本大学は、熊本県と共に地域貢献特別支援事業「環・阿蘇/有明・八代海的环境保全・修復とブルーグリーンツーリズム活性化のための知的・人的ネットワーク構築」を実施しています。内容は、「沿岸域の環境調査・分析」、「ブルーグリーンツーリズムの活性化」および「環境教育」です。

沿岸域環境科学教育研究センターおよび熊本県水産研究センター教職員は、「環境教育」の一環として、市民公開講座をしています。講義では、沿岸域の生物・環境に関する最新の研究成果をわかりやすく解説し、干潟沿岸域の環境の保全創造について受講者と共に考えています。3月には、有明海の見学・実習ツアーも、実施されます。

### — 講演題目 —

- 2月6日 山口隆男（沿岸域センター）有明海・八代海の興味ある動物 ハクセンシオマネキとオヨギピンノ
- 2月13日 秋元和實（同センター）小さな化石からみ

### た有明海の変遷

- 20日 滝川 清（同センター）有明海の環境異変と改善への処方箋
- 27日 逸見泰久（同センター）八代海・有明海の生物と漁業
- 3月6日 瀧尾 進（同センター）ノリの色落ちのしくみを探る遺伝子研究
- 13日 平山 泉・木村武志（熊本県水産研究センター）再生に向けての取り組み  
— 実習ツアー —
- 3月15日 バスと実習船による県水産研究センター見学と調査実習



参加者からの熱心な質問に答える講師

## 好評だった「砂をみんなで見てみよう」

2002年12月14日、熊本大学黒髪南地区において、夢科学2003が開催されました。理学部地球科学科の長谷義隆教官、松田博貴教官と大学院学生7名、沿岸域環境科学教育

研究センターの秋元は、世界の砂や様々な微化石を顕微鏡で見てもらおう企画で初めて参加しました。来場した300名以上の子どもたちに、砂の種類や分布している地域を当てるクイズや、顕微鏡下で砂から化石を拾い出してもらいました。



来場者を200以下と想定していたため、300個用意した星砂や植物化石のお土産者は、終了1時間前にはすべて無くなってしまいました。

小さな化石はどれ？熱心に砂から微化石を拾う小学生

## お知らせ

### 1. 平成15 (2003)年度・公開実習予定 (合津マリンステーション)

#### (1)「海の不思議、発見！」(大学等地域解放事業)

小学生と保護者を対象に、2003年7月5日(土)午後6～9時(樋合海水浴場)、6日(日)午前9～12時(永浦干潟)。波打ち際で妖しく光るウミホタルと、干潟で巨大ハサミを振って求愛のダンスを踊るハクセンシオマネキを観察します。合津マリンステーションに集合、現地で解散します。募集人員は、各日40名(1日のみの参加も可)。遠方の方は、マリンステーションに宿泊できます(定員30名)。



親子でウミホタルの観察

#### (2)「海の生きものを知る－天草の海の神秘－」 (熊本大学一般公開実習)

高校生以上を対象に、7月19日(土)午後1時～20(日)午後2時(1泊2日、マリンステーションに宿泊)。ウミホタルやハクセンシオマネキなどの観察、海岸動物の採集と観察、実習船を使つてのプランクトン採集と観察を行います。合津マリンステーションに集合。募集人員は、25名。



実習船を使つてプランクトンを採集

#### (3)「公開臨湖・臨海実習」(大学間単位互換実習)

8月6日(水)午後6時～12日(火)午前10時に、公開実習をします(6泊7日)。ヤドカリ類・カニ類の行動学(観察と実験)。対象は大学2～4年生。単位認定については各大学の事務で確認してください。合津マリンステーションに集合。募集人員は、24名。

### 2. 熊本大学公開講座「有明海の異変」(知のフロンティア)の開講

2003年4月19日(土)14:00～15:30、文法(A-1)教室。滝川清教授の公開講座が開催されます。

### 3. シンポジウム「有明海・八代海の再生をめざして、～環境・生態系の実態と保全への提言～」の開催 (主催:NPO「みらい有明・不知火」)

2003年3月16日(日)13:00～、メルパルク KUMAMOTO。有明・八代海の再生法の設立経緯、環境特性と再生への方策等についての基調講演、国、学識経験者、報道関係、研究機関、漁業生産者によるパネル討論会があります。

### 4. 第4回干潟フェスタの開催

2003年5月17日(土)、熊本新港緑地広場で、“干潟フェスタ”を実施します(参加費無料)。大盛況でした干潟で“むつごろう”などの観察、有明海的环境を勉強するコーナー、地元の皆さんによる“青空市場”などの企画に加えて、たくさんのお新企画も用意しています。有明・八代海沿岸域環境研究会と熊本大学が主催し、国土交通省、熊本県、熊本市、民間企業などが協力して実施します。目的は、海を大切に、守り続けて行く心を育てることです。皆さんのご参加を待っています。

### 5. むつごろう通信への投稿を歓迎します。

投書欄は皆様のものです。提供いただいた情報をむつごろう通信に掲載します(必ず氏名、連絡先、電話番号を欄外に記入してください)。原稿は、400字程度の平易な文章で書いてください。写真(L版サイズ)も受けつけます(30字以内の説明をつけてください)。読み難い単語にルビをつけてください。編集で手を加えることもありますが、ご了承ください。

原稿および写真は、センターの秋元和實(akimoto@sci.kumamoto-u.ac.jp)、または滝川清(takikawa@gpo.kumamoto-u.ac.jp)までお送りください。

---

連絡先：〒860-8555 熊本市黒髪2丁目39番1号  
熊本大学沿岸域環境科学教育研究センター  
事務連絡先：熊本大学総務部研究協力課  
TEL096(342)3143 FAX096(342)3149  
<http://www.kumamoto-u.ac.jp/center-for-marine/top.htm>

---